

平成17（2005）年度
明星学苑事業報告書

【平成17（2005）年4月1日から平成18（2006）年3月31日まで】

学校法人明星学苑

平成17(2005)年度 明星学苑事業報告書

目次

I. 法人の概要	2
1. 理事長あいさつ	2
2. 明星学苑の教育	3
3. 沿革	4
4. 設置校および所在地	5
5. 役員	5
6. 学生数	6
7. 教職員数の推移	6
8. 組織概要	6
II. 事業の概要	7
1. 学部学科の設置	7
2. 認証評価	7
3. 教育研究活動	7
4. 国際交流	9
5. 社会貢献・地域貢献活動	9
6. 産学官連携	10
7. 学生支援サービス	10
8. キャンパス整備	11
9. キャリア形成と卒業生の進路・就職状況	11
III. 財務の概要	13
1. 財産目録	13
2. 貸借対照表	13
3. 収支計算書	13
4. 監事の監査報告書	15
(別表) 1. 学生数・生徒数	2. 組織概要
3. 財産目録	4. 貸借対照表
5. 資金収支計算書	6. 消費収支計算書

I. 法人の概要

1. 理事長あいさつ

「学天の明星」を目差して

理事長 齊藤 和明

1927（昭和2）年、明星中学校が創設された際に、ここが理想の教育実践の場、「学天の明星（メイセイ）」として、輝くようにという期待が、時の宗教界の指導者新井石禅師より寄せられました。

明星教育の基本は、1. 和の精神を基礎にした「真心により真心を育てる人格接触」の教育、2. 実践躬行の「体験教育」、3. 心の力を育てる「凝念」教育、4. 学訓「健康、真面目、努力」の教育、5. 「世界に貢献する人才の育成」、に置かれておりました。

創設者児玉九十が私学に献身する決意をされて約一世紀後、古い価値観は崩壊したと考えられ、生々しいテロと核戦争の恐怖、環境破壊、科学技術・医療・企業と倫理の問題が新たに教育現場に大きな影響を及ぼしている現代、学天に明星を輝かす明星学苑の理想は、さらに重要になっています。

この時代の混迷と困難には、学苑の教師はかつて見せたことがない真剣さで立ち向かっています。時代に応じて、不易の理想を追いつつも新しくすべきところは新しくする、変えるべき古い体質は棄却するという改革が、いま進められています。

明星実務学校創立から数えて85周年にあたる再来年の記念事業として、いわき明星大学の薬学部新設への準備、明星大学での改組改編による施設の新改築が進み、また府中でも幼稚園、小学校の新築につづき、中学高校が男女共学一貫教育に備えてのカリキュラム改革と、講堂などの新築計画を進めています。

ところが、教育崩壊の時代、実は外側の装いよりも、創立の基本の「真心の教育」をさらに徹底して実践し、明るい、通うのが楽しい学校にすることが、保護者から最も期待されているのです。その期待に応えるために、いま学苑の開学以来の当然なすべきことをなす教育を、毎日の教育活動に受け継ぎ実践することに努めつつ、人間育成の輝く理想の「学天の明星」を目差し、明星学苑は歩みをつづけています。

2. 明星学苑の教育

建学の精神

「人格接触」の教育

和の精神を礎にした「指導者が真心をもって、生徒・学生の自然の心を真心に育てあげる」教育、「人格接触」の教育、「手塩にかける」教育をもって、明星教育の根本精神としています。

学訓

「健康、真面目、努力」

「健康、真面目、努力」の学訓に基づき、明るく、強く、正しい精神を体得させ、あくまでも良識と実践力のある心身ともに健全な生徒・学生の育成を目的として創立以来歩んでいます。

教育方針

「実践躬行の体験教育」

王陽明の「知行合一」、二宮尊徳の「実践躬行」およびジョン・デューイの「ラーニング・バイ・ドゥーイング」の思想の流れを汲む体験教育は、「思索と体験の一致の教育」で、単なる頭の教育に終わらず、判断力と実行力に優れた人才育成をめざしています。

教育目標

「世界に貢献する人才の育成」

新しい時代を背負って立つべき生徒・学生には、さまざまな機会をとらえ国際性を涵養し「世界に貢献する人才の育成」を教育目標にしています。

3. 沿革

- 大正 12 (1923) 年 明星実務学校設立
- 昭和 2 (1927) 年 明星中学校に改組
- 昭和 23 (1948) 年 明星高等学校開校
- 昭和 24 (1949) 年 明星幼稚園開園
- 昭和 25 (1950) 年 明星小学校開校
- 昭和 29 (1954) 年 明星中学校・高等学校に女子部設置
- 昭和 39 (1964) 年 明星大学創設 理工学部 (物理学科、化学科、機械工学科、電気工学科、土木工学科) 設置
- 昭和 40 (1965) 年 明星大学人文学部 (英語英文学科、社会学科、心理・教育学科) 設置
- 昭和 41 (1966) 年 明星大学人文学部に経済学科増設
- 昭和 42 (1967) 年 明星大学通信教育部開設
- 昭和 46 (1971) 年 明星大学大学院開設
- 昭和 62 (1987) 年 いわき明星大学創設 理工学部 (基礎理学科、物性学科、電子工学科、機械工学科)、人文学部 (日本文学科、英米文学科、社会学科) 設置
- 平成 4 (1992) 年 明星大学情報学部 (電子情報学科、経営情報学科)、日本文化学部 (言語文化学科、生活芸術学科) 設置
いわき明星大学大学院開設
- 平成 10 (1998) 年 明星大学大学院情報学研究科開設
- 平成 11 (1999) 年 明星大学大学院通信課程開設
- 平成 12 (2000) 年 明星大学日本文化学部生活芸術学科を造形芸術学科に名称変更
- 平成 13 (2001) 年 明星大学人文学部経済学科を経済学部経済学科に改組
いわき明星大学学科改組 理工学部 (環境理学科)、人文学部 (言語文化学科、心理学科) 改組、社会学科を現代社会学科、理工学部電子工学科を電子情報学科に名称変更
- 平成 15 (2003) 年 明星大学人文学部社会学科を人間社会学科に名称変更
明星中学校共学化開始
- 平成 17 (2005) 年 明星大学学部改組改編 理工学部 (機械システム工学科、電気電子システム工学科、建築学科、環境システム学科)、人文学部 (国際コミュニケーション学科)、経済学部 (経営学科)、情報学部 (情報学科)、造形芸術学部 (造形芸術学科)
いわき明星大学学部改組改編 科学技術学部 (生命環境学科、電子情報学科、システムデザイン工学科)、人文学部 (表現文化学科)
- 平成 18 (2006) 年 明星大学大学院経済学研究科設置
明星大学通信制大学院人文学研究科博士後期課程設置
明星高等学校共学化開始

4. 設置校および所在地

(平成18年4月1日現在)

<大学> 明星大学

【日野校】(東京都日野市程久保2-1-1)

理工学部、人文学部、経済学部、情報学部、通信教育部

大学院：理工学研究科、人文学研究科、情報学研究科、経済学研究科、人文学研究科通信課程

【青梅校】(東京都青梅市長淵2-590)

日本文化学部、造形芸術学部

いわき明星大学(福島県いわき市中央台飯野5-5-1)

科学技術学部、人文学部

大学院：理工学研究科、人文学研究科

<高等学校>

明星高等学校(東京都府中市栄町1-1)

<中学校>

明星中学校(東京都府中市栄町1-1)

<小学校>

明星小学校(東京都府中市栄町1-1)

<幼稚園>

明星幼稚園(東京都府中市栄町1-1)

5. 役員

(平成18年4月1日現在、理事定数11名、現員11名、監事定数2名、現員2名)

理事(理事長) 齊藤和明

理事(学長) 氏原淳一

理事(学長) 高重正明

理事(校長) 城戸一夫

理事(常任理事) 神山次郎

理事(常任理事) 木住野暢大

理事(常任理事) 蔵多得三郎

理事(非常勤) 小坂恵児

理事(非常勤) 中川一

理事(非常勤) 久世礼子

理事(非常勤) 大室容一

監事(非常勤) 中嶋栄治

監事(非常勤) 小沢伸光

6. 学生数（別表1）

本法人が設置する大学における過去3年間の学生数の在籍状況は別表1のとおりです。

7. 教職員数の推移

（各年度5月1日現在:法人基礎調査）

	平成15年度			平成16年度			平成17年度		
	専任 教育 職員	非常 勤教 育職 員	専任 事務 職員	専任 教育 職員	非常 勤教 育職 員	専任 事務 職員	専任 教育 職員	非常 勤教 育職 員	専任 事務 職員
明星大学	239	316	184	243	325	194	273	338	208
いわき明星大学	83	91	52	81	97	52	81	90	50
明星高等学校	92	0	33	92	3	37	89	1	28
明星中学校	37	0		41	0		41	1	
明星小学校	30	0		30	0		32	0	
明星幼稚園	12	0		12	0		12	0	
計	493	407	269	499	425	283	528	430	286

8. 組織概要（別表2）

法人組織および設置する各学校の組織は、別表2のとおりです。

II. 事業の概要

1. 学部・学科の設置

(1) 明星大学

① 新設1学部8学科の設置

改組改編によって平成17年4月に新たに造形芸術学部造形芸術学科、機械システム工学科、電気電子システム工学科、建築学科、環境システム学科、国際コミュニケーション学科、経営学科、情報学科の1学部8学科を開設した。

また、この改組改編を契機に青梅校に設置されていた情報学部を日野校に移転した。

このような改革・改善を行った結果として、前年度に比較して、約1.8倍の志願者を獲得することができた。

② 大学院の設置

経済学研究科応用経済学専攻（M）（入学定員10名）及び人文学研究科教育学専攻（D）通信教育課程（入学定員3名）の設置申請を行い、平成18年4月に設置することが認可された。

(2) いわき明星大学

平成19年4月薬学部（薬学科）開設に向けて準備を進めた。

2. 認証評価

(1) 明星大学

学校教育法に定める認証評価機関の一つである（財）大学基準協会への加盟判定審査を受け、改善勧告を受けることなく平成18年度から5年間、正会員となることが認められた。同時に、法に定められた認証評価を受けた大学となった。

(2) いわき明星大学

平成18年1月に（財）大学基準協会に加盟判定審査を申請。大学評価を受けると同時に、正会員校に加盟する予定。

3. 教育研究活動

(1) 明星大学

① 教育活動

改組改編に併せて、全学的な共通科目を開設し、外国語教育、情報教育、さらには本学の教育理念を具現化する「自立と体験」に係る教育プログラムに積極的に取り組んだ。特に、「自立と体験」は、本学の教育理念である体験教育をより具現化するために設けた必修科目で、各学部・学科において、これまで以上に体験教育の実体化に取り組み、学生の自立性、主体性などの向上に教育効果をもたらした。

② 研究活動

主な研究活動としては、文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業として採択されている地球環境科学センター（学術フロンティア推進事業）およびアジア環境研究センター（オープン・リサーチ・センター整備事業）の研究事業を継続して推進した。

③ 通信教育課程

レポート、試験、スクーリングなどの学習状況の把握、成績管理等を大幅に改善するために事務のシステム化を行い、通信教育学生への指導を中心としたサービス活動を強化した。

(2) いわき明星大学

- ① 平成17年度独立行政法人日本学術振興会の科学研究費採択件数4件。
- ② マルチメディア教育研究会、理工学セミナー、東北心理学会、化学への招待、遺伝子組換え実験体験講座等開催。
- ③ 平成18年1月に日本臨床心理士資格認定協会へ1種指定校の認定申請を行い、同年4月に認定された。

(3) 明星高等学校

- ① 一人ひとりの習熟状況に合わせたきめ細かい指導を行うために、習熟度に差の出やすい英語と数学については一年次から習熟度別授業（RS授業）を行っている。
- ② 国公立大学・難関私立大学への一般受験を目指すため、選抜クラスを各学年に1クラス設置。
- ③ 本校英語科の指導の下、河合塾が大学受験を志す生徒対象のサテライト授業を放映。
- ④ 主要科目（英語・数学・古典）の理解度に応じた追加講習会の実施。

(4) 明星中学校

- ① 一人ひとりの習熟状況に合わせたきめ細かい指導を行うために、習熟度に差の出やすい英語と数学については二年次から習熟度別授業（RS授業）を行っている。
- ② 個別指名制に基づくきめ細かい授業フォロー。
- ③ 放課後学習会の実施。

(5) 明星小学校

- ① わかる算数のためのティームティーチング実践。
- ② 月2回のイングリッシュタイムの特設。
- ③ 漢字力と読解力の強化。
- ④ 専科制と教科担任制の適性配置。
- ⑤ 教科学習5日制の見直しの継続検討。
- ⑥ 教科学習と「くぬぎの時間」の相乗効果を発揮。
- ⑦ 宿泊行事と学校生活の関連性を高めた。

(6) 明星幼稚園

- ① 重点保育として下記の4点を行い、本園の特色を明確化してきた。
「食育」「絵本の読み聞かせ」「自然に親しむ」「日本の伝統文化に親しむ」
- ② 総合学苑としての特色を生かし、小・中・高大生とのふれあい活動を行なう。

- ③ 幼稚園のシンボルゾーンに「築山」(ぼうけんやま)を造成。
- ④ 降園後の園庭開放日を設定。
- ⑤ 地域との密着活動(中学生職業体験受入れ、園行事への参加等)。

4. 国際交流

(1) 明星大学

改組改編によって、人文学部に国際コミュニケーション学科を開設することを契機に、外国の大学との学術交流を拡大・充実し、提携校が20校となった。これによって、学生が短期および長期にわたって留学しやすい環境を整えた。

(2) いわき明星大学

平成17年5月に、中国「遼寧石油化工大学」と「教育及び研究の交流に関する協定」締結。同年7、8月に同大大学院生2名が交換留学生として来学。同年10月に副学長、学部長、人事部長が来学し、記念植樹を行った。

(3) 明星高等学校

- ① 夏季語学研修旅行カナダ・ホームステイの実施(16日間)。
- ② 2年生オーストラリア修学旅行(7日間)。
- ③ 国際ロータリー青少年交換派遣学生の受入れ。
- ④ 台湾常春藤高級中学校の生徒・教職員が来訪。

(4) 明星中学校

- ① 国際協力機構(JICA)実施の交流プログラムで、モンゴルの中学校教員(数学/理科)20名が授業および施設を見学。
- ② 夏休みに米国でのホームステイを実施。

5. 社会貢献・地域貢献活動

(1) 明星大学

大学全体としては、(社)学術・文化・産業ネットワーク多摩および日野・青梅・八王子市などの地方自治体との連携によって、教職インターンシップ、学生ボランティア活動などを積極的に支援した。

この他にも、毎年恒例となっているサマースクール、夏休み科学体験教室などの地元の小中学生を対象とする催し物や、公開講座(日野校でのべ9回、青梅校で10回開催)、造形芸術学部主催の生涯学習講座、地域住民に対するグラウンドなどの施設開放を行った。

また、日野校では、大規模キャンパス再開発を推進する中で、地域住民との協議会を設け、そこでの意見に基づいた地域貢献活動に着手した。

(2) いわき明星大学

- ① 現代社会学科の学生および教職員を中心として、新潟県長岡市内の震災仮設住宅で3回のボランティア活動実施。また、豪雪被害の会津地方、金山町・三島町で除雪作業を行った。
- ② 平成18年1月に平工業高校と高大連携協定書締結。

(3) 明星高等学校

- ① 府中第5地区清掃活動へ生徒会が参加。
- ② ジュニアオーケストラ・軽音楽部の地域参加。

6. 産学官連携

(1) 明星大学

大学事務局にリエゾンオフィスを設け、TAMA-TLOと提携して、知財管理、産学官連携事業を推進した。

特に、特許については、新たに10件の申請を行った。

この他にも、本学の大型研究装置等を利用した企業等との連携、発明特許に関わる委託研究の拡充、本学の研究成果物をさまざまなイベント、フェアへ出展するなどの事業を展開した。

(2) いわき明星大学

- ① 産学連携研究セミナーの開催。
- ② 平成17年5月ベンチャー企業「有限会社バイオインテック」誕生。キッチン・キットサンから医療用・化粧品の原料を製造。

7. 学生支援サービス

(1) 明星大学

- ① 平成17年度から、学生の入学から学習、就職、学生生活の多岐にわたる活動を支援することを目的として、学習支援センターおよび学生生活・キャリア支援センターを設置した。開設初年度の主な支援活動としては、リメディアル教育を充実し、数学、英語などの学生の基礎学力向上に大きな成果があった。
- ② 平成16年度の大学創立40周年を記念して開始した奨学募金事業を継続して展開し、約8,000万円の寄付金が得られた。この事業については、次年度も継続する。
- ③ 平成16年度から実施している認知度向上をめざした広報活動を継続して展開した。

(2) いわき明星大学

- ① 資格取得講座開講（英検、TOEIC試験対策）。
- ② 新入生研修会を4月5、6日裏磐梯ロイヤルホテルにて実施。

8. キャンパス整備

(1) 明星大学

日野校のキャンパス再開発として、平成18年度末の完成を目指している理工学部棟（A・B棟）、共用演習棟、教育研究棟の建設工事を計画どおり推進した。

また、青梅校については、造形芸術学部用のガーデンデザイン実習棟並びに共同工作室を整備した。

(2) いわき明星大学

- ① マルチメディア設備を昨年までの10教室に加え6教室を整備。
- ② 野球場防球ネット設置。
- ③ 薬学部棟建築工事に着手。

(3) 府中校

- ① 屋外トイレの改修工事。
- ② 外柵・門扉等の改修工事を実施し、学苑内の安全管理を強化。

9. キャリア形成と卒業生の進路・就職状況

(1) 明星大学

平成17年度の就職率は、大学全体で91.0%と前年度の90.6%を上回った。景気回復に加え、団塊世代の大量退職を控えた企業の積極姿勢を反映し、2～3年前に較べて就職状況は好転してきている。

特に、本学の特色でもある幼小中高校の教員採用状況は、全学で62名（前年度54名）に増加した。

キャリア形成については、学生生活・キャリア支援センターを設置すると共に、全学共通科目である「自立と体験」の授業の中で、企業系の外部講師を招き、学生のキャリアアップなどの意識を高める取り組みを始めた。

(2) いわき明星大学

インターンシップに89名が参加。平成17年度の就職率は全体で79.7%であった。就職の傾向としては、人文学部では卸・商社・小売・サービス業に約60%が就職。理工学部ではサービス業・製造業に約80%が就職している。

なお、社会福祉士国家資格試験に2名が合格した。

(3) 明星高等学校

- ① 明星大学（26%）、その他4年制大学（36%）、専門学校（13%）、短期大学（5%）進学準備・その他（20%）の割合。
- ② 国立大学6名、私立上位校32名合格。
その内容は学内中学出身の男子生徒の健闘、女子の進出が顕著となっている。
- ③ 現役生が圧倒的に実績を残している。

(4) 明星中学校

① 明星高等学校進学 145名 (男子76名、女子69名)

② 外部高校進学 15名 (男子11名、女子4名)

③ 留学 1名 (男子1名)

④ その他 1名 (女子1名)

(5) 明星小学校

① 明星中学校進学 84名 (男子35名、女子49名)

② その他の私立中学校、公立中学校進学 32名 (男子16名、女子16名)

(6) 明星幼稚園

① 明星小 32名

② その他の私立小学校、国公立小学校進学 54名

Ⅲ. 財務の概要（平成17年度決算の状況）

1. 財産目録（別表3）

財産目録については、別表3のとおりです。

2. 貸借対照表（別表4）

貸借対照表については、別表4のとおりです。

資産の総額は、149,206百万円で、前年度と比較して4,132百万円（2.7%）の減少となりました。その内訳は、有形固定資産が2,628百万円（3.5%）増加して77,890百万円となり、その他の固定資産が6,134百万円（11.2%）減少して48,562百万円となり、流動資産が626百万円（2.7%）減少して22,754百万円となりました。負債の総額は7,051百万円で、前年度末と比較して2,075百万円（22.7%）の減少となりました。基本金は135,757百万円で、前年度と比較して8,386百万円（6.6%）の増加となりました。

3. 収支計算書

（1）資金収支計算書（別表5）

資金収支計算書については、別表5のとおりです。

収入については、学生生徒等納付金収入の減少により、対予算比618百万円の減少となりました。また補助金収入について、国庫補助の経常費補助金収入の減少により対予算比34百万円の減少となりました。一方、支出については人件費支出および教育研究経費支出についてそれぞれ対予算比2.8百万円、48百万円の増加となりましたが、管理経費支出、施設関係支出および設備関係支出についてそれぞれ対予算比314百万円、153百万円、307百万円の減少となりました。この結果、収入支出の合計は対予算比684百万円減の48,806百万円となり、次年度繰越支払資金は対予算比247百万円減の21,140百万円となりました。

（2）消費収支計算書（別表6）

消費収支計算書については、別表6のとおりです。

学生生徒納付金、補助金、資産運用収入などの本学苑に帰属する帰属収入については、19,127百万円となり対予算比586百万円の減少となりましたが、これは学生生徒納付金の減少等によるものです。基本金組入額合計は、対予算比572百万円減の8,573百万円となり、帰属収入から基本金組入額合計を差し引いた消費収入の合計は、対予算比14百万円減の10,554百万円となりました。一方、人件費、教育研究経費および管理経費等の消費支出の合計については、21,183百万円となり、対予算比940百万円の減少となりました。この結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支については、10,629百万円の消費支出超過となりました。また、前年度繰越消費収入超過額から当年度消費支出超過額を差し引き、基本金取崩額188百万円を加えた翌年度繰越消費収入超過額は、6,399百万円となりました。

(3) 消費収支状況経年比較表

法人全体 平成13年度～平成17年度

(単位：百万円)

科 目	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	前年度比
学生生徒等納付金	17,927	17,358	17,088	16,072	15,677	△ 395
手数料	377	363	334	374	330	△ 44
寄付金	85	103	112	132	107	△ 25
補助金	2,099	2,366	1,727	1,801	2,020	219
資産運用収入	707	459	249	276	192	△ 84
資産売却差額	22	31	283	230	1	△ 229
事業収入	58	51	67	62	66	4
雑収入	370	385	409	439	734	295
帰属収入計	21,645	21,116	20,269	19,386	19,127	△ 259
基本金組入額計	△ 2,973	△ 3,037	△ 3,566	△ 3,779	△ 8,573	△ 4,794
消費収入の部計	18,672	18,079	16,703	15,607	10,554	△ 5,053
人件費	10,185	10,393	13,806	11,178	11,934	756
教育研究経費	5,488	5,800	5,527	6,332	7,049	717
管理経費	1,204	1,257	1,440	2,175	1,968	△ 207
借入金等利息	0	0	0	0	0	0
資産処分差額	204	211	15	705	232	△ 473
徴収不能額	0	0	0	0	1	1
消費支出の部計	17,081	17,661	20,788	20,390	21,184	794
消費収入超過額	1,591	418	△ 4,085	△ 4,783	△ 10,630	△ 5,847

※本表は、各項目ごとに四捨五入している関係から、財務の概要説明と誤差が生じています。

(4) 消費収支財務比率経年比較表

法人全体 平成13年度～平成17年度

(単位：%)

財 務 比 率	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
人件費比率	47.1	49.2	68.1	57.7	62.4
教育研究費比率	25.4	27.5	27.3	32.7	36.9
管理経費比率	5.6	6.0	7.1	11.2	10.3
借入金等利息比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学生生徒等納付金比率	82.8	82.2	84.3	82.9	82.0
寄付金比率	0.4	0.5	0.6	0.7	0.6
補助金比率	9.7	11.2	8.5	9.3	10.6


4. 監事の監査報告書

監査報告書

平成 18 年 5 月 18 日

学校法人明星学苑
理事会 御中

学校法人明星学苑

監事 中嶋 榮彦 

監事 小沢 伸光 

私たちは、学校法人明星学苑の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項に基づいて同学苑の平成 17 年度（平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決済書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以 上